

京丹波町住民自治組織によるまちづくり検討委員会 第6回会議

日時 平成19年4月19日
午後7時～9時15分
場所 瑞穂支所会議室
出席委員14名（欠席1名）

1 開会

2 あいさつ

委員長……前回の会議において、既存の5つの振興会については住民自治組織として今後の活躍を期待することを確認し、未設置の地域についても、小学校の範囲など様々な区域が考えられるのではないかと多くの意見が出された。

前回のグループワークの話の中で、振興組織のあり方など一歩進んだ話もしていただいているので、その内容をもとに今日はさらに検討を深めていきたい。

また、この検討委員会での検討の内容が少しでも地域に浸透していくよう情報の公開に努めたい。

3 報告

(1) 事務局体制について

事務局……4月1日付の職員人事異動により、本委員会の事務局職員が一部交替となった。よろしくお願ひしたい。

(2) 京丹波町総合計画基本構想の策定について【町広報京丹波4月号No18、町勢要覧配布】

事務局……【概要報告】

基本構想の中に、「構想の実現に向けて」ということで、これからのまちづくりは、町民、団体、民間事業者等と行政との協働を基本とすると定めている。その協働を進めるにあたっての地域のあり方という視点で、検討委員会では住民自治組織のあり方等について検討をいただいている。総合計画基本構想は、基本計画審議会の答申を受け、3月の町議会において承認され策定したものである。

4 議題

(1) 既存地域振興会の位置づけ等について

事務局……前回の会議のグループワークにおいて出された発言を、内容ごとに区分したものである。本日は、住民自治組織のあり方、運営体制、支援のあり方等を中心に検討をいただきたい。

委員……既存の振興会においては各戸からの会費、又は、区からの負担金を財源とされているところもある。財源を確保することは重要なことであり、地域住民が財源の負担をしてもいいと思えるような価値のある組織にしなければいけない。

また、既存の振興会も他の組織との活動が重複部分もあり転換期に来て

いるのではないだろうか。

委員……組織の立ち上げ当初に、あれもこれもということはできないので、まずは、地域住民参加型の活動を行い、地域の活性化を図るべきではないか。その中でも、イベントという切り口で活動を行っていくというのは有効なのではないか。

委員……組織していく上で、地域の範囲や各種団体の連携の範囲などまず検討を行う必要があるが、行政区の仕事は今までどおり継続されるのであって、スリム化ではなく、かえって負担が増えてくるのではないか。ただ組織を広域化しただけでは、ただ大きくなっただけで今までと一緒になるのではないか。

広域的に組織しイベントなどを行うことは、有効であると思うが、ただイベントをする組織になってしまっただけではいけない。

委員長……支援のあり方について意見を出していただきたい。

委員……行政との連携の中で業務を行うとなると、その費用を地域の負担にするのは難しいのではないか。地域のまちづくりを行う活動に対して会費を負担していただくことは理解が得られるのではないか。

行政区の負担も多く、少子高齢化で人口も少なくなっており、集落再編も視野に入れなければいけない。そのことを先に視野に入れて組織の立ち上げも考えることが必要ではないか。

事務局……行政区と振興会との関係、行政区の事務の負担軽減、また、集落の再編の話までしていただいたが、振興会の目的は、地域のまちづくりを地域のみなさんで考え、実践していくということであり、行政区の負担軽減、集落再編については振興会を組織する直接の目的になるものではないかもしれない。組織が発展する中で解決する問題の一つとして出てくるかもしれないが。

住民自治組織の地域まちづくりの観点からの必要性、地域にある各種団体との関係など、幅広くご意見をお出しいただきたい。

委員……三ノ宮地域振興会では、区長にも役員として出てきておられるが、区長さんには役職の負担をかけないように配慮されている。振興会があるからこそ実施できたものも多くあり、振興会の必要性を感じている。

三ノ宮地域では、振興会が中心となって各種団体で実行委員会を組織し春の交流イベントを実施したが、その取り組みの中で、地域のつながりを深めていこうという話もでてきており振興会の見直しを行ってはと話が出てきている。

人的支援の問題で町職員を事務局として配置するという事は財政的にも厳しいかと思うが、行政からの何らかの支援は必要であると思う。

委員……丹波地域では既存組織もない状況であるが、危機意識も薄く、住民の皆さんも期待感はあまりないのではないか。

地域で組織化に向けた話をするとき、最初から負担、財政のこの話をしてなかなか難しいので、資料にもあるように、まずは、地域のみなさんで地域の課題を出し合うことから始めていくべきなのかなと思っている。

- 委員……会費の件、地域のみなさんが地域に関心を持って、地域のために負担をすることは賛成である。
支援の関係については、地域のための活動に会費が使われる、地域に還元される取り組みが重要なのではないか。
地域の活性化のために活動されている組織が連携をされ、その活動に対して支援すべきではないか。
住民自治組織の事務所は整備する必要はないのではないか。和知地区に仮に6ブロックできたからといってそれぞれに事務所をおくのではなく、支所の空きスペースを利用して事務局を構え、町の担当職員の支援を受け組織間の連携を図ることが適当ではないか。
- 事務局……地域課題を解決できる地域のしくみづくりを進めるものであり、そのお話をいただいたと思っている。農林の面でも広域的な保全といったことも行われている。広域的に地域の課題を解決することも重要である。
- 委員……須知区は240戸あまりで大きな区であり、広域的な連携という必要性、地域の危機感は薄いように思われ、新たな組織ができれば役職が増えるなどといったくらいではないか。
- 委員……協働のまちづくりは、意識改革をしなければ、組織の発展も、財政面でも会費を納めるということも難しいのではないか。
行政からの支援をどこまで考えるのかということも重要であるし、危機意識が地域によってまちまちである中で、組織化ができる、できない地域が出てきた場合、地域への支援という面で不公平が生じるのではないか。
組織化を図る上で、地域の各種団体が関わりを持っていくということは重要であると思うが、現在、各種団体が解散したりしている中で、新たな組織への参画が可能なのかという心配がある。
- 事務局……地域のみなさんが参画していただき、地域で課題克服のために役割分担を行う、地域で機能する有意義な組織づくりをするためのあり方等についても、次回以降、検討をお願いしたい。

5 その他

6 閉会

- 副委員長……地域の課題や思いも多様であるが、引き続き総合的に組織のあり方についてご検討をいただきたい。

次回会議

開催日：5月17日（木）午後7時30分から

会場：京丹波町役場2階議場